2026・2027年度会長選挙候補者

会長候補者選定委員会

京都大学工学研究科化学工学専攻教授
河 瀬 元 明

2026・2027年度会長候補者は1名でした。
選挙は信任投票で行います。
（会長候補者選定投票規程第6条2項：
学側会長候補者が1名の場合は信任投票とする）

☆　☆　投票開始　☆　☆

Web投票：2025年11月17日（月）10時～12月5日（金）16時
（化学工学会のHP（https://www.scej.org/）より投票できます。投票方法はHP内に記載。）
郵便投票：2025年11月17日（月）～12月4日（木）の消印有効

☆　投票資格者
2025年7月31日現在の正会員在籍者

☆　郵送による投票用紙の請求期間
2025年10月1日（水）～11月20日（木）
＜請求先＞〒112-0006　東京都文京区小日向4-2-8大樹生命文京小日向ビル4F
公益社団法人化学工学会内　会長候補者選定委員会
※会員番号，会員名，Web投票ができない理由，の三点を明記してご請求ください。
内容確認後，投票用紙を会員登録された住所に送付いたします。

☆　選挙活動期間
2025年10月1日（水）～11月14日（金）
この期間に候補者への質問をE-mailにて受け付けます。質問及び質問への回答はHP上にて公開いたします。
質問先：election2025@scej.org
上記メールアドレス宛てに「会長候補者宛て質問事項」という題名で，会員番号と会員名を明記した上でご連絡ください。

☆　結果
化学工学会誌及び化学工学会のHPに掲載

著作権法により無断での転載等は禁止されています

2026・2027年度会長候補者推薦書

1. 推薦者氏名及び会員番号

推薦者は公表されません。

2. 公選制候補者氏名及び会員番号

氏名：河瀬元明　　会員番号：8701561

3. 公選制候補者略歴

学歴・職歴

1987年 3 月　京都大学工学部化学工学科 卒業
1989年 3 月　京都大学大学院工学研究科修士課程化学工学専攻 修了
1990年 9 月　京都大学大学院工学研究科博士後期課程化学工学専攻 中退
1990年10月　京都大学 助手（工学部化学工学科）
1997年 3 月　京都大学 博士（工学）取得
2001年 5 月　京都大学 助教授（工学部工学研究科化学工学専攻），2007年4月法改正で准教授
2010年 8 月　京都大学 教授（工学研究科化学工学専攻化学工学基礎講座反応工学分野担任）
現在に至る

この間，2016年度～2017年度 化学工学会庶務理事，2025年度～現在 化学工学会副会長

4. 化学工学会を運営する方針・施策

運営方針

「ひとりひとりが自分のものだと思える学会を目指して」

化学工学会では2024年3月にVision 2036を発表しました。「人と科学技術で社会の未来を拓く」をミッションとし，Vision 1―社会実装を加速させる，Vision 2―広い連携で社会変化に機敏に対応する，Vision 3―多様な評価軸で新たな価値を創造するという三つのビジョンを掲げました。これらは会員自身が作成した社会への公約です。とりまとめた者として，これらのビジョンの達成を本会の運営方針とします。学会は専門分野を同じくする技術者，研究者の集まりです。同じ目標を掲げたとき，その協働は最大の成果をもたらすでしょう。地球環境の変化，化石資源の枯渇のために，いま社会課題は急速に変化しています。100年後のあるべき姿を考えるだけでなく，数年先に求められる解決策も実現することが，化学工学には求められます。協働による加速のために，学会は密接な連携を可能とする場でなければなりません。とくに企業の技術者の垣根を越えた協働を促します。工学の目的は人類の幸福であり，効率だけがそれを叶えるわけではないことは言を俟ちません。新しい価値を認めていきます。すべての根幹は，会員一人一人が化学工学会を自分の学会だと思えることです。化学工学会にもっとも人を集める方策として，支部活動，部会活動の一層の活性化を推進します。

施　策

1）社会実装を加速させる

化学工学のあるべき姿を議論しつつも，これまでどおり技術の芽を工業化する役割から化学工学は逃げることができません。前世紀までは数十年かけた工業化開発が可能でしたが，人類はいま急変する環境に置かれています。目標自体が数年毎に変化する，そのような社会要求に応えるためには，私たちの仕事を加速させる必要があります。化学工学会は，学問体系化，地域・時代に応じた目標設定，そのための人材育成を行うことでこれを支援します。

2）広い連携で社会変化に機敏に対応する

速い社会変化，課題の変化に機敏に反応するために，情報収集を行い，会員に発信する必要があります。会誌とメール配信，大会プログラム，INCHEM TOKYOでの情報発信の迅速化と，変化に機敏に対応するための新しいチーム構築の仕組みを整備します。化学工学以外の分野の技術者，研究者ならびに学協会との連携，化学工学会内部での部会間の連携，部会と支部，本部と支部，支部と懇話会や他支部との連携等を促進できるよう，ひ

著作権法により無断での転載等は禁止されています

とつの分科会が複数部会に所属することを可能にするなどの仕組みを整備します。これから留学生や外国人研究者が増加し，国際連携は拡大していきます。2025年にはフィリピンのPIChEとの連携協定も締結されました。これからもアジア国際賞やIChES，秋季大会における国際シンポジウムを活用し，英文誌特集号との連携等を通じて，会員の国際ネットワーク作りを支援できる学会の国際活動を推進します。

3）多様な評価軸で新たな価値を創造する

生産効率だけではない技術の評価軸，有益性や学術性だけでない研究の評価軸，発表論文数だけでない研究者の評価軸，DEIBの観点での多様な評価軸等を，化学工学会では議論し，一部実践してきました。今後も柔軟かつ機敏にこの問題に取り組みます。その活動の中から，安価な大量生産だけでない，定時性，迅速性，多様性等を重視した新たな価値が創造され，社会に敷衍していくことを後押しします。

組織運営については，会務表彰制度を設け，学会運営に尽力された部会，支部や会員を顕彰したいと考えています。一人ではできないことを化学工学は協働によって実現してきました。今後も会員一丸となって，科学技術で未来を拓く化学工学会とすることで，魅力ある学会を若い世代に引き継いでいきます。

5. 抱負

学生時代から係わってきた化学工学会の会長に推されたことを光栄に思います。日本で化学工学者が集う唯一の学会として，化学工学会が，多くの人が集まり，切磋琢磨し，新しい技術と新しい価値を創造する実を上げることのできる学会であって欲しいと思います。そのために，学生や若手技術者，研究者が参加したいと思える活動が必要です。また，化学工学は実学であることで評価を得てきました。産学の連携は本会の大きな特徴であり，求心力の源泉です。部会間の連携も学際化への対応として重要です。産官学，部会と部会，本会と他学協会，本部と支部といった関係の橋渡し役を会長が務めるべきだと考えています。化学工学が備える経営感覚は新しい事業も生むでしょう。新芽を逃さず，化学工学を定義しなおしていくことも必要です。会員の皆さんとともに，前進する化学工学会を作っていきたいと思います。

著作権法により無断での転載等は禁止されています